



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R6年度 第6号①
津山教育事務所 1月

特色ある学校紹介

真庭市立榎邑小学校

学校教育目標

榎邑に誇りをもち仲間と共に輝く児童の育成

願い

今を生活している子どもたちが、**今を幸せに**生きてほしい。
榎邑小学校で、**プラスのエネルギー**をたくさん貯めて、
この先の人生を**たくましく**歩んでほしい。
子どもも大人も**幸せな榎邑地域**であってほしい。



大切にしていることをデザインよく職員室前に掲示しています。

大人にとっても子どもにとっても行きたい学校に!
魅力ある榎邑小 子どもが主役の榎邑小

大切にしていること

Challenge! 榎邑だからこそできる

Colorful is wonderful! 持ち味は宝物 (一人一人を大切に)

★KASHIMURA未来会議

榎邑に関係(縁)のある人が集まって、榎邑の未来に思いをはせながら、対話をする会

- ・榎邑のよさや課題
- ・目指す地域像
- ・これからの取組 など



KASHIMURA未来会議で出された意見を廊下に掲示しています

ビジョン(学校の目指す方向)・コアバリュー(最も大切にしている価値観)・パーパス(存在意義)・ミッション(使命・果たすべき役割)を地域と共に考え共有して進んでいます。



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R6年度 第6号②
津山教育事務所 1月

特色ある学校紹介

真庭市立櫛邑小学校

学校経営計画とアクションプラン、校内研究が連動

★AP「一人一人が輝くこと」に関する項目 (抜粋)

- 重点目標 自分の思いや考えを表現することができる児童の育成
- 達成指標 自分の思いや考えを表現(書く・描く・話す・体現する等)している。
- 重点取組 安心して学びに向かえる環境づくり
 - 特に、生活科・総合的な学習において次のことを意識した授業や活動を行う。
 - ・付箋やワークシートへの記述・ペアやグループ討議・ICT活用した表現
 - ・児童一人一人の状況と手立ての確認・マイめあてと振り返り

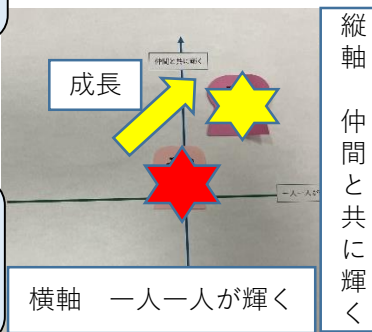
櫛邑が目指す子ども像から重点項目を設定しています

個のカルテ作成
→ 見取り
→ 一人一人の手立て工夫

★AP「仲間と共に輝くこと」に関する項目 (抜粋)

- 重点目標 自分の思いや考えを伝え、仲間と共に学習に取り組む児童の育成
- 達成指標 理由を示しながら、自分の思いや考えを伝えている。
- 重点取組 対話の生まれる環境づくり
 - 特に、生活科・総合的な学習において理由を示しながら自分の思いや考えを伝えることを意識した授業や活動を行う。
 - ・意図的な理由の問い返しやおたずね・いいとこみっけ(対話アイテム活用)

APの具体の実践は校内研究別紙資料1～3を参照してください



☆の中にエピソードを記入して見取り、座標軸に位置付ける

個(グループ)を見取り、次の手立てを工夫していくという教師の構えは、小規模校だけではなくすべての学校の参考になります。

※APでは上記2つの項目内に上記のように知に関わることと、そのほか体に関わる重点目標・達成指標・重点取組も設定しています。次のような成果が見られています。

- ・運動会で一人一人「振り返り」マイク発表・運動会でのいいとこみっけ(大人も子どもも) 運動会では地域住民だけでなく、真庭高校・勝山高校の有志も参加 みんなが集いたくなる行事
- ・生活科・総合的な学習の充実 (第6号③研究会参加者の声 参照)
- ・他教科や他の教育活動へよい広がりが見られる。トークタイムの充実 学習後の振り返り
- ・櫛邑版ハロウィンサスケ ハロウィンフェスティバル 全校遊び等(すべて子どもが企画)
- ・終業式: がんばり作文 国語: お話づくり 社会科: 新聞づくり
- ・他校との交流(低学年: ミートで紹介 中学年: 三校交流会) 等



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R6年度 第6号③
津山教育事務所 1月

特色ある学校紹介 真庭市立檜邑小学校

研究主題



檜邑きらきら学習のポイントを廊下に掲示しています。

「見つける力」「あらわす力・つくる力」「伝える力・つながる力」を育てる授業づくり ～檜邑きらきら思考(アート思考&デザイン思考)を生かして～

「対話的な学びの定義づけ」

 お互いに理解し合い高め合おうとする言葉や感情のやりとり

檜邑きらきら学習の考え方

具体の実践は校内研究別紙資料
1～3を参照してください

1-2年 檜邑きらきら探検隊
3～5年
檜邑きらきらデザイナー

檜邑きらきら学習の目的は、子どもにとって探究課題を解決することで、自分を輝かせ、同時に檜邑を元気にすることにある。教師にとっての目的は、探究課題の探究・解決の過程で、子どもに3つの力「①見つける力」「②あらわす力・つくる力」「③伝える力・つながる力」を育てることにある。同時に、子ども一人一人の思いや考えを大切にする学び(アート思考)と、共に学び合い課題解決する学び(デザイン思考)＝檜邑きらきら思考を深めることでもあると考える。

檜邑きらきら思考

一人一人の思いや考えを大切に

仲間と共に学び合う
ことを大切に
(協働的な学び)

- アート思考：自分をきらきらにする学び(自由な発想 感性 広げる)
- デザイン思考：檜邑(みんな)をきらきらにする学び(課題の解決 実用的 まとめる)

真庭市学力向上推進事業 公開授業研究発表会参加者の声

温かい雰囲気の中、子どもたちが互いを理解し合いながら笑顔で学び合っている姿がとても素敵でした。たくさんの方が参観している中でも、生き生きと自分の考えを伝え合うことができているのは、今までの積み重ねがあってこそだと思いました。4つの対話アイテムを使うことで、何を伝えるかが明確になり話し手にも聞き手にもわかりやすかったです。授業者が児童に寄り添いながら、思いを引き出す声かけをされていたことがとても印象的でした。子どもたちの作ったコーナーの表現方法が様々で、自分なりの思いやアイデアで制作を進めていることにも感心しました。自分の作ったコーナーについて、それぞれの子が台本を用いずに理由をつけながらしっかり説明し、さらによりよくしたいという思いを持つことができていたのは、この学習に主体的に取り組んでいるからだと思います。校内の檜邑ギャラリーにも子どもたちや地域の方の作品が展示してあり、日頃からミュージアムが身近にあることも児童がイメージしやすいのだらうと感じました。



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R6年度 第6号④
津山教育事務所 1月

特色ある学校紹介

真庭市立榎邑小学校

「学校は地域の中心、文化の拠点」 Colorful is wonderful!

子どもを真ん中に 誰もが集いたくなる 環境づくり

榎邑学区秋季連合運動会

- ・児童が対話と練習で創造
- ・150周年記念昔懐かし競技
- ・真庭&勝山高校生の参加
- ・みんなで久世音頭

榎の里きらきら発表会

- ・一人一人がきらきら
- ・地域&卒業生のステージ発表
- ・作品展示 ・PTA劇団 ・校歌熱唱

そのほか

- ・図書室地域開放
- ・150周年記念「記録に残ることに拘らず記憶に残ることを」
- ・KASHIMURA芸術祭
- ・大人のかしむら学
- ・様々な体験活動等

榎邑きらきらミュージアム (R6生活科1・2年)



KASHIMURA共学講座

- ・子どもと大人が共に学ぶ
- ・べっこうあめ 校歌 昔話
- ・おもしろ科学実験 音楽鑑賞
- ・アイロンビーズ 粘土細工

榎邑タイム

- ・水曜日掃除なし・ロング昼休み
- ・地域の方と交流・第1回：昔遊び
- ・第2回：ニュースポーツ

榎邑ギャラリー

- ・子どもの作品&地域の方の作品
- ・等身大の子どもたちがお出迎え
- ・思い出の写真コーナー
- ・DVD&ホームページ閲覧コーナー

共学講座の告知放送

- ・子どもたちが行いました
 - ・地域の人の声
- 「告知放送聞いたよ。子どもの声はええなあ。一生懸命言っているのが伝わってきて、かわいいなあと思ったよ。」

榎邑ギャラリー (子どもたちと地域の方の作品展示)



アクションプラン (AP) の作成・取組、人材育成、教育課程編成、校内人事等、学校経営で相談したいこと、お困りのことがありましたら、ご遠慮なくアドバイザー**金田まで**ご連絡ください。

連絡先：津山教育事務所義務教育支援課学力向上班 TEL (0868) 24-8705

4 樫邑きらきら学習とは

○子どもにつけたい力（育成をめざす資質・能力）

| 【知識および技能】 | 【思考力・判断力・表現力】 | 【学びに向かう力・人間性】 |
|---|--|--|
| 1 見つける力 | 2 あらわす力・つくる力 | 3 伝える力・つながる力 |
| (1) 豊かに感じる力 | (1) 探究する力 | (1) 関わり交流する力 |
| 様々な感覚を使い、事物に関わり、多面的にとらえる。 | ①課題設定力：目的をもち、実現のための課題や見通しを明らかにする。 | 「人・もの・こと」と進んで関わり、学び合おうとする。 |
| (2) 関わり、気づく力 | ②情報収集力：目的に沿った情報を必要な手段を用いて収集する。 | (2) 自己を見つめる力 |
| 「人・こと・もの」に関わり、その魅力や課題に気づく。 | ③整理分析力：目的に沿って情報を分類し、まとめる。集めた情報から価値あるものを考え見つける。 | 学習をふり返り、自分の生活につなげて考える。 |
| 対話：お互いに <u>理解し合い高め合おう</u> とする言葉や感情のやりとり | ④表現・発信力：相手や目的に応じて様々な手法でわかりやすくまとめ、表現、発信する。 | (3) 共によりよく生きる力 |
| | (2) 対話する力 | 人・自然・社会と自分との関連に関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする。 |
| | 自分の考えを伝えたり、目的に合った質問をしたりして考えを広め、深める。 | |

○児童の目的・教師の目的

児童の目的：課題の探求や解決を通して、自分や樫邑（みんな）をきらきら（笑顔・元気）にする。

教師の目的：樫邑きらきら思考（アート思考・デザイン思考）を生かして、子どもにつけたい力を育てる。

【樫邑きらきら思考】

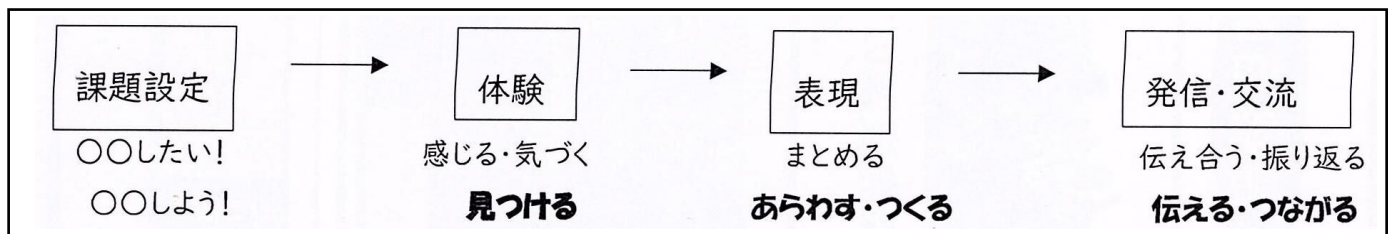
●**アート思考**…自分をきらきらかにする学び（自由な発想 感性 広げる）

一人一人の思いや考えを大切に

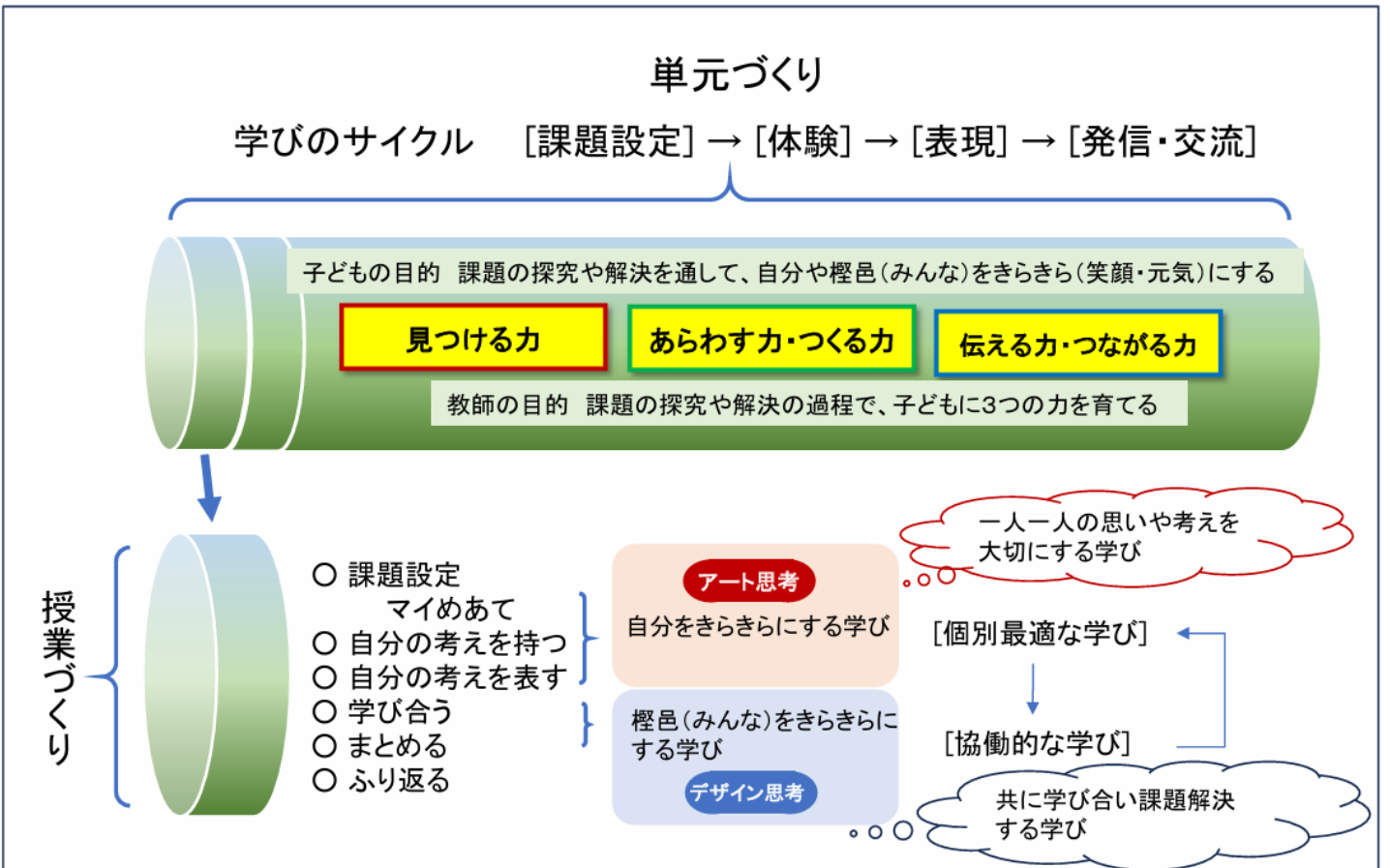
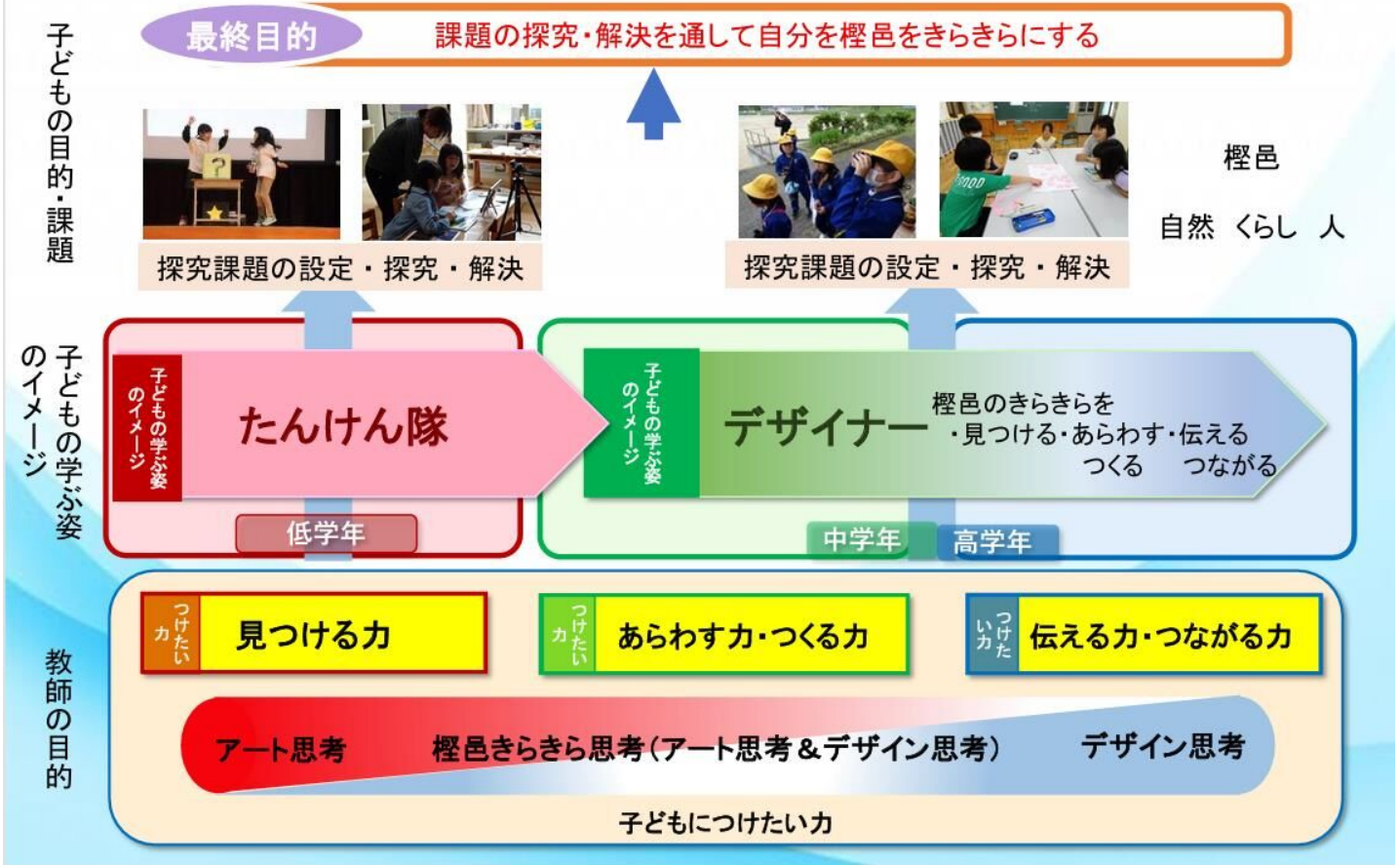
●**デザイン思考**…樫邑（みんな）をきらきらかにする学び（課題の解決 実用的 まとめる）

仲間と共に学び合うことを大切に（協働的な学び）

○探究的な学習展開のしかた



檜邑きらきら学習 (目的、探究課題、学ぶ子どもの姿のイメージ)



檜邑きらきら学習づくりの考え方

【2-② 子ども主体の学び合う授業に変える教師の関わり方や声かけの 取り組み】

教師主導の教える授業から子ども主体の学び合う授業へ変えていく。言い換えれば、一人ひとりの思いや考え（アート思考）を大切に、対話を通して学び合う（デザイン思考）子どもを育てるための、教師の役割は何か。授業研修を通して研究をおこなった。授業記録をもとに、教師の子どもへの関わり方や声かけを分析することで、どのような支援が有効か、いくつか明らかにすることができた。（資料参照）

一人ひとりの思いや考えを大切に、対話を通して学び合う子どもを育てるために必要な、教師の関わり方や声かけ

○ 子どもの思いや考えをきく

まずは子どもの考えを聞くことを教師自身が実践する。「自分の考えを発表しよう」から「友だちの考えを聞こう」と教師から呼びかける。正解を求めるのではなく、その子どもなりの思いや考えを聞き合い認め合う集団づくりから始める。

○ 気持ちを表す

教師自身が子どもの考えや思いに関心を持ち、気持ちを表す。

○ もどす

必要に応じて子どもの思考や活動を課題に沿うようにもどす。

○ 認める・価値づける

子どもの発言や対話の良さを認める。また対話の何が良いかを価値づけ子どもに伝える。（内容の良さ、対話の良さ、主体的な学びの良さ等）

○ モデルを示す

教師も子どもの対話に参加する。教師自身が4つの対話の要素を使い対話のモデルを示す。

（・自分の考え ・いいところみつけ ・おたすね ・おたすけ） まずは、いいところみつけから始める。

○ つなぐ

対教師との対話から、子ども同士の対話へとつながるように、子どもの発言を他の子どもにつなぐ。

○ 考えを広げる・深める

子どもの考えを広げ深めるために、子どもの考えを促す問い（おたすね）を出す。

特に後半の○認める・価値づける ○モデルを示す ○つなぐ ○考えを広げる・深める は、子ども同士の対話を促し深い学びに向かうために必要な教師の関わり方であると考えます。